



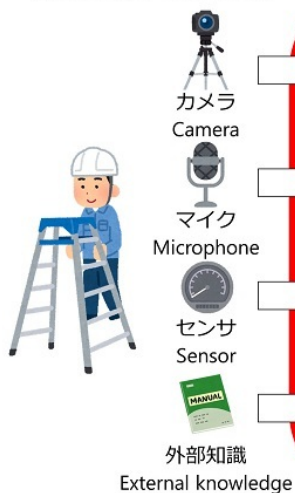
# 理想と現実のギャップを分析し、より良い行動をサジェストします

## 概要

カメラ映像や音、センサ情報を分析して作業者の行動・状況を認識し、マニュアルなどの情報から推定した理想状態と比較することで手順の誤りや非効率な作業を発見可能にすることをめざしています。マニュアルレベルの細かな作業状態の把握に向けて、カメラ映像から人のさまざまな行動を認識する技術をご紹介します。

### 作業状況をセンシング

#### Sensing work status



#### 現在の状態(Current status)

人の行動や人・物体の関係性を認識・把握  
Recognize human actions and relationships between persons and objects



人のさまざまな行動を認識  
Recognize various human actions

#### 理想の状態(Ideal status)

事例や知識からあるべき状態を推定  
Estimate ideal status from cases and knowledge

#### ギャップ分析 (Gap analysis)

現在と理想の状態を比較し、ギャップを分析  
Compare current and ideal status and analyze gaps

### 利用シーン例

#### Examples of usecases



危険行動の早期発見と事故防止  
Unsafe action detection and accident prevention



非効率な手順の改善提案  
Suggestions for improving inefficient procedures

## 特徴

- 実世界と理想の状態を比較し、作業における危険予知や作業効率化を実現
- 人のさまざまな行動を階層的に捉えることで、多数の行動を高精度に認識

## 利用シーン

- 通信建設現場や工場などでの危険行動の早期発見と事故の未然防止
- 作業員の行動をモニタ・検証し、非効率な手順の改善を提案

## 今後の展開

- ギャップ分析に必要な理想状態の抽出やシーン記述など要素技術の検討を重ね、実際の作業現場でのトライアルを通じてフィージビリティの検証を進めます。

## 出展社

日本電信電話株式会社

問い合わせ先：  
rdforum-sv-ml@hco.ntt.co.jp